

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	1150 趣旨普及経費	会計	09	介護保険事業特別会計
		款	01	総務費
		項	04	趣旨普及費
		目	01	趣旨普及費
基本 施策	06 高齢者の健やかな生活を支える	細目	537	趣旨普及経費
		細々目	01	趣旨普及経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード	130500		担当者 氏名
	名称	健康福祉部介護高齢福祉課		
		連絡先	26 - 3939	(内線)

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	65歳以上の第1号被保険者 ※対象件数
成果(どうする)	制度の周知・サービスの利用の仕方、保険料の納付等介護保険制度について理解が深まる。適正な介護サービスを受けられる。
根拠法令・要綱等	介護保険法・伊賀市介護保険条例・伊賀市介護保険規則
開始年度	平成 12 年度
終了年度	平成 年度
H21 事業 内容	介護保険制度について理解をいただくため、65歳以上の第1号被保険者に対して、制度の周知・サービスの利用の仕方、保険料の納付などについて啓発活動を行う。 「介護保険の保険料」のリーフレットを作成し、配布した。また、「あったかいね介護保険」のパンフレットを作成し、本庁及び各支所の窓口を設置し、直接的な説明機会による周知を図る。
	社会情勢 の変化等

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			パンフレットの印刷部数	部	目標 10000 実績 3000	目標 40000 実績 6000

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				目標	実績	目標	実績

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	473	800	378	378				
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0	0	378					
一般財源	473	800	0	378				
事業投入人件費 (B)	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720	720	
フルコスト(A)+(B)	1,193	1,520	1,098	1,098				

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
効果性	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
達成性	当初設定した計画を 60%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無	21年度に第4期事業計画を策定することで、初年は多く作成したが、2、3年は残りがあり予定より少なくて十分である。
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
	受益者負担を求められることができる事業である。全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	制度の普及・啓発の手法について、多角的に検討し、より多くの市民がたに制度の理解を浸透させる必要がある。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 第4期事業計画は、21年度から23年度の計画であり、21年度は初年度となるのでパンフレット6000部作成した。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	植田美由喜
【方向性】	現状維持
【理由】	各種介護サービスを自ら選択して利用できるよう、制度の周知は引き続き行う。
現時点における課題、その他	特になし
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	特になし